

紫峰の風

shihou no kaze



筑波大学
University of Tsukuba
第6号 2017年12月

「紫峰の風」は学生生活の様子や活動の報告を、紫峰会基金協力者の皆様にお届けする広報誌で、紙面の企画や記事の取材等は学生広報会議や広報部会の学生が実施しています。この名称には「筑波の峰から吹き降りる風に、我々の活動への想いを乗せて、全国の皆さまのもとへお届けする」という意味が込められております。

雙峰祭開催!!



学生やその家族、卒業生、地域の方々と賑わう雙峰祭第一エリアの会場

学園祭を終えて

第43回筑波大学学園祭「雙峰祭」は11月3日（金）から11月5日（日）にかけて行われました。昨年のように全日程晴れというわけではなく、雨が降った日もありましたが、雙峰祭は大成功をおさめ、筑波大学生にとって最高の「筑波日和」となったと自負しております。今年は委員長として参加した雙峰祭でしたが、ご来場いただいた方々をはじめ、筑波大学生や大学職員の方々、実行委員の笑顔の間近で見ることができ、この1年間尽力してきた成果を実感しました。

この度、雙峰祭の開催に際し、学生が主催する諸行事や課外活動等に支援していただいている筑波大学紫峰会基金より、援助金100万円を支援していただきました。昨年以上の雙峰祭を創り上げるために、雙峰祭の運営資金としてこの援助金を有効に使わせていただきました。誠にありがとうございました。

（寄稿／平成29年度筑波大学学園祭実行委員会委員長
田辺飛鷹・物理2年）

キャンパスニュース



TSUKUBA COLLECTION 2017ミスター・キャンパス受賞の喜び

ときめき太鼓塾の学園祭ステージ

のりりんおら肉班の鳥もも炭火焼き

後夜祭のオープニングセレモニー

松美池前のビーフストロガノフ販売

秋空の下の雙峰祭

前夜祭つくバラエティーの優勝チーム

芸術専門学群による日本画制作展

応援部WINSの後夜祭でのパフォーマンス

写真部による写真展

紫峰会基金援助金目録の贈呈

前夜祭での新桐舞による舞

野生動物研究会の展示企画「生物日和」

前夜祭の鏡開き

管弦楽団の管弦café

書道部書展の作品

マジシャンクラブの「コロスアッパマジックショー」

学生による受験応援企画

LGBTQAサークルにしほりによる展示企画

—内容—

キャンパスニュース	1、2頁
就職活動を終えて	1頁
学生相談室から、桐の葉日記	
学類・専門学群紹介、Editors'2017	2頁
平成31年卒業、修了予定者対象就職ガイダンス等のすすめ	
特集：筑波大学の留学生事情	3頁
芸サ連、文サ連、全代会、体育会活動紹介	3、4頁

今後の主な予定 (変更になる場合があります)

秋ABモジュール期末試験	12月20～26日
冬季休業	12月27日～1月8日
同(東京キャンパス・夜間)	12月23日～1月5日
秋ABCモジュール期末試験	2月5、9、13～15日
同(東京キャンパス・夜間)	1月30、31日、2月8～10日
期末試験予備日	2月16日
同(東京キャンパス・夜間)	2月6、7、13日
春季休業	2月17日～
同(東京キャンパス・夜間)	2月14日～
卒業式・大学院学位記授与式	3月23日
同(東京キャンパス・夜間)	3月24日

就職活動を終えて



「考えすぎず、葛藤すること」

体育専門学群4年

佐藤 章

就職活動を始める際に最初に考えておくべきなのは、自分が就職活動をする理由であると考えます。私は小学生の頃からサッカーに携わっており、競技歴は16年に及んでいます。良い環境でサッカーをすることを求めて筑波大学の進学も叶えた。筑波大学蹴球部にはプロ・アマチュアを問わず多方面にコネクションが広がっている。今後もサッカーを続ける道を探すには最高の環境であり、卒業後もサッカーを本気で続ける道は用意されていた。しかし私は「サッカー以外の世界を知り、その世界で新しい夢を見つけてみたい」と考えた。そして、経済的に恵まれた状態で幸せな家庭を築き、親孝行をすることも最優先事項であった。私が就職活動を始めることにした理由はそれである。

就職活動を通じて心がけていたことは、「まず第一に行動する」、「最初の肌感覚を大切にする」、「就職活動に正解はない」ということである。

私は保健体育の教員免許取得と就職活動を両立させることを大前提としていた。そして、一般的な就職活動が佳境に入ってくる5月、6月に教育実習が重なることが事前に分かっていたため、とにかく早め早め行動することを意識した。自己分析や企業研究のノウハウも分かっていない頃から就活サイトに登録し、部活動の合間を縫える就活セミナーやワンデーインターンに参加し、他大学の就活生の雰囲気肌を肌で味わった。普段同

じ時間を共にしない就活生の価値観や考え方を吸収することが、何よりモチベーションに繋がった。

内定先は大手人材紹介の企業へと決まった。求職者や転職者と企業をつなげる役割を担っていくことになる。収入面、勤務地、社員の方の魅力、そして何より自分の力を発揮できそうかどうか、などの観点で総合的に判断した。他にも様々な要素はあり、必死に自分と向き合って自己分析を進めていった上で企業選びの尺度は見付けてきたが、結局は感覚で自分に合っていたかそうでないかの判断が一番信用できるように感じる。私の内定先の企業は最初の説明会段階から自分のフィーリングとマッチしており、会社の価値観も自分のそれと一致するために面接もスムーズに進んでいった。このように書くとあまり深く考えずに就職活動をしていたように思われるかもしれないが、もちろん就職先を選ばなければならない最終段階でいくつもの企業が選択肢に含まれていた中での最終的な判断基準が、肌感覚である。先ほど述べたように一番の動機は「自分の持っている力を発揮できそうだ」ということである。それでも選択肢を絞り切れなくなったときに、直感を信じたということである。

最後に、就職活動は楽しんだ者勝ちである。失敗しても、縁が無かったと割り切って次に進む、楽観的な考え方が必要になる。この記事を読んで頂いている方々の、または親しい方々の就職活動が成功することを願ってやまない。



「先達はあらまほしき事なり」

教育研究科教科教育専攻2年
川邊貴英

朝井リョウの『何者』という作品をご存じでしょうか。就職活動に翻弄される6人の大学生を巧みに描き、第148回直木賞にも輝きました。この小説に描かれているように、多くの学生は就職活動という独特の文化に戸惑うことでしょう。こうして文章を書いている私自身もまた、就職活動に悩み苦しんだ者の一人です。

あまたある苦労の中でも、とりわけ情報の多さに苦しんだことは忘れられません。就職活動全盛期、一日に届くメール数は100件を超えていました。メール以外にも、インターネット上の掲示板、会社説明会、友人からの噂など、複数のチャネルを介して届く情報は膨大で、さながら情報の海に溺れているようでした。情報が集まりすぎるがゆえに、どの情報を信じてよいのか判断が追いつかず、疑心暗鬼になることもしばしば。「自分の一生がこの一瞬にかかっている」と思うと、輪をかけて不安が募っていきました。

そんな私に救いの手を差し伸べてくれたのは、6年間の学生生活で出会った、筑波大の卒業生を中心とする社会人の皆様です。サークルやアルバイト、インターンシップなどを通して、素晴らしい縁に恵まれていたことが救いでした。世間知らずの私に「社会とは何か」「これからどう生きるべきか」を教えてくださいました。社会人の皆様には他なりません。お忙しいのにも関わらず、親身になって話をしていただいたおかげで、就職

活動を進める上での不安や疑問などを解消することができました。また、そこで学んだことは、他のどんなことよりも実践的で、かつ信頼が置けるものでした。兼好法師は『徒然草』のなかで「先達はあらまほしき事なり」と書いていますが、現代の就職活動でも同じことが言えるかもしれません。インターネットや書籍などに情報が溢れかえっていたとしても、「先達」以上に信頼できるものは少ないのではないのでしょうか。

この文章を読んでいる後輩の皆様へ。就職活動と大学生活は切っても切り離せない関係にあります。就職活動の時期になると、盛んに自己分析や企業研究をするよう煽られることと思いますが、何か特別なことをする必要はないと思います。大学生活と就職活動は連続しているものです。授業やサークルの中で培ってきた能力やつながりなどをきちんと振り返り、就職活動にも活かすことが、就職活動を成功へと導く礎となるでしょう。だからこそ、ぜひ今取り組んでいる諸活動を全力で取り組んでください。今の経験が、就職活動にもきっと生きてくるはずですよ。

この場を借りて、就職活動の際にお世話になりました皆様へ深く御礼申し上げます。一日も早く皆様に近づけるよう、そして世の中の役に立てるよう粉骨砕身する所存です。また、筑波大の後輩の皆様が、就職活動で華々しい成果をあげられるようお祈り申し上げます。

学生相談室から

受付窓口 029-853-2415
電話相談 029-853-2406

「気持ちを伝える“I”メッセージ」 保健管理センター 学生相談室 慶野遥香

本年7月から学生相談室で勤務しております、カウンセラーの慶野です。日に日に増す寒さとクリスマスソングに、一年の終わりを感じています。私にとってこの一年は、新しい職場で新しい人たちと出会い、新鮮で大きな影響を受けた年でした。

大学生という時期も、人間関係の幅がいきなり広がるときです。同じ学類の同級生だけでなく、サークル、研究室、アルバイトと、さまざまな年代、属性の人との交流を通して、友情を深めたり、恋愛を経験したり、協力して何かを成し遂げる経験を積んでいきます。時には失敗したり、傷ついたりしながら、人づきあいのやり方を柔軟で豊かにしていく学生さんにお付き合いしていると、自然と応援したい気持ちになったり、時には我が身を振り返ったりと、なかなか刺激的です。

今回ご紹介する「I」メッセージは、気持ちを伝えるテクニックのひとつで、「私」を主語にした言い方です。私たちは、感情的になったときや、親しい相手と会話をするとき、「あなた」

を主語にして自分の気持ちを表現することがあります。メールを送った相手から返事が来ないときに、「あなたはいつも返事をくれない」「(あなたの) そういうルーズな性格を直してよ」といった言い方です。これは、相手を非難するニュアンス、相手の意図や性格を決めつけるニュアンスが含まれるので、しばしば反発を招いてしまいます。一方、「I」メッセージで表現すると、例えば次のようになります。「返事がこなくて、(私は)何かあったんじゃないかと心配になった」「一言でも返事をくれたら、嬉しいし安心する」。これは「私は、～だ」という言い方なので、自分の気持ちを表現しやすくなります。言われるほうも、そのほうが素直な気持ちで受け取りやすいのではないのでしょうか。

このテクニックは、親子や夫婦など家族同士の会話や、上司として部下を注意する、褒める場面でも使えます。年末年始、家族が集まるこの機会に話したい事が…などというときは、よかったですら試してみてください。

桐の葉日記

残暑が厳しく夏の終わりが見えずにいたと思えば、突然寒風と雨に見舞われ、まるで秋が通り過ぎ冬が来てしまったと錯覚してしまいます。急に冷え込んだ中、皆様はお変わりなくお過ごしでしょうか。

私事ではありますが、私が文化系サークル連合会の広報局長となり、「紫峰の風」製作に携わるようになってからまもなく1年が経とうとしています。右も左もわからず先代の広報局長を質問攻めにしてきた以前の私を懐かしく思うと同時に、激務に追われながら過ごしたこの1年で、以前よりも成長した自分の姿に誇りを持てるようになりました。

1年前、広報局内で一番動けるという理由から、広報局長という役職についてしまった私。中学時代、学級委員をやっていた失敗した記憶が蘇り、果たして自分に広報局のリーダーなど務まるのだろうか、と不安な気持ちでいっぱいになっていました。

しかし、先代の局長がくださった引継ぎ資料をもとに、時に先代や広報部会の方々などを質問攻めにし、時にインターネットに頼り、たどたどしくも何とか業務を遂行していくうちに、かつてリーダー業で失敗した自分も、今では自信を持って業務

に取り組むことができるようになりました。また、それなりに社交性も身に付けることができ、人付き合いがあまり得意でなかった私も、積極的に人に話しかけるようになりました。

さらに、様々な人と関わっていくうちに積極性が増し、昨年ほとんど取らなかつた他学類の講義をいくつも取り、当初入っていたサークルの他にもう1つサークルを掛け持つようになりました。その結果、春学期末に体調を崩すこととなってしまいましたが、やりたいことにひたむきになり、人との繋がりも経験も増えたため後悔はありません。

文サ連の広報局長として、そして学生広報会議に関わる身として、過ごせたこの1年は決して無駄ではなかったと振り返って思います。代替わりの時期を迎え、私はこの業務から離れることとなりますが、今度は私が当初してもらっていたように、新メンバーを支えていきたいと思っています。新メンバーも紫峰の風製作に尽力してくれると思いますので、これからも紫峰の風をよるしくお願いいたします。

(文責/文サ連広報局長 長坂美優・創成2年)

キャンパスニュース



永田学長から学位記の授与

平成29年度卒業式・学位記授与式(9月期)

9月25日に大会館ホールで、9月期の卒業式・学位記授与式が執り行われた。天候は清々しい秋晴れで、卒業生の門出を祝うにふさわしい日となった。永田学長から各専攻の代表に学位記が授与され、その後祝辞が述べられた。多くが海外からの学生であるため、全て英語でのスピーチだった。「あなた方が新たな挑戦に取り組む想像力を働かせるほど、世界中にこの大学の個性を表現することになるでしょう。世の中の視点で見ると、我々の大学の価値は、卒業生の皆さんが社会へもたらした価値に等しいのです。新たな人生へと踏み出す皆さんを祝うとともに、さらなる成長と成功を心から祈っております。」と祝辞は締めくくられ、学群から47人、大学院から115人の卒業生へ激励の言葉が贈られた。

(取材/広報部会 村上優衣・人文4年)



秋学期入学式での応援部 WINS によるエール

平成29年度秋学期入学式

9月29日、大会館ホールにて平成29年度秋学期入学式が行われた。入学者は学群学生が76名、大学院学生が181名であった。入学者の多くが外国人留学生であり、永田学長による式辞は全て英語で行われた。

入学式終了後は同ホールにて、大学院学生2名による歓迎の歌「筑波大学メッセージソング『IMAGINE THE FUTURE~未来を想え』」の歌唱が行われ、入学者たちは静かにその歌に耳を傾けていた。また、歓迎の歌の後には、応援部WINSによるエールが入学者に送られた。WINSのチアリーディングチーム、アンサンブルバンド、そして学ランを着たリーダーらによる熱の入った全力のエールは入学者の心にしっかり届いたことだろう。

(取材/広報部会 清野晃平・生物4年)



蹴球部を応援する観客席

蹴球部天皇杯バスツアー

先日行われた天皇杯ラウンド16、筑波大学蹴球部 vs 大宮アルディージャ戦のバスツアーには365名もの方たちに参加して頂きました。バスは9台となり過去最大規模の大応援団となりました。メール予約して頂いたお客様と筑波大学からバスで会場(今回はカシマサッカースタジアム)に向かい、部員たちと応援し、共に闘うというのがバスツアーの内容です。バス内でも、応援練習やビンゴ、モチベーションビデオ(気持ちが高まるようなビデオ)の上映など様々な企画をご用意しました。地域との繋がりを大事にしたい蹴球部にとって、これほどの人数が集まり共に闘えるという環境はとても有り難いことです。結果は悔しいものとなりましたが、蹴球部だけではなく「筑波大学」や「つくば」の魅力を全国に示すことができたかと確信しています。応援ありがとうございました。(寄稿/蹴球部バスツアー局長 寺岡博輝・体専3年)



スタジアムに設置された筑波ブース。応援グッズなどを配布



献身的なプレーでチームを支える 副将 戸嶋祥郎選手

学類・専門学群紹介

情報学群 知識情報・図書館学類

学類紹介

知識情報・図書館学類は情報化社会に生きる我々が知識や情報を有効に活用するための仕組みについて学ぶ学類です。そのために「知識科学」「知識情報システム」「情報資源経営」の3つの専攻で、知識情報と社会をつなぐ人材を育成しています。

知識情報・図書館学類の学生より

知識情報・図書館学類での学びの特色は、情報という概念を土台として様々な対象を様々なアプローチで探求しているところです。この場を借りて僕がこの学類を選んだ理由、そして現在の学びと目標を紹介できればと思います。



僕は子どものころから科学やSFが好きで、高校の放課後はよく日暮れ過ぎまでそういった話題で友人と盛り上がりました。しかし、高校2年の秋に読んだ情報学者・西垣通の『こころの情報学』が進路選択に大きく影響し情報学にとっても興味が湧きました。「情報」が通底する学際的な学問領域を構想しているその内容に心が踊り、「学際的な情報学」をキーワードに筑波大学のこの学類を選びました。図書館学から図書館情報学、そしてより学際的な情報学へという流れを持つ知識情報・図書館学類では、文系理系の垣根を越え情報の扱いについて学ぶことができます。そして3年生から3つの専攻に所属し、それぞれ人、情報技術、社会にフォーカスして知識を深めます。その学際的な性質によって、科目ごとの関連を理解しながら体系的に学ぶことは難しく感じますが、この夏にドイツへ図書館のインターンに行き実際に情報を扱う職に触れたことで、大学で学んだいくつかの点がつながった気がします。僕は知識情報システム専攻に所属し、特にデータから知識を創出する技術や人間がどうやって知識を創出するのかに興味を持ちながら日々学んでいます。ジェネラルなスペシャリストを目指してこれからも頑張りたいと思います。(寄稿/穴倉基文・知識3年)



知識発見基礎論の講義の様子

知識情報・図書館学類の授業紹介

知識発見基礎論では、創造性とはなにかという事を学び、その視点から物事の課題発見から計画の終了までの一連の要素を学んでいきます。

まず創造性とはなにかという点については、論理的推論に始まり、知能研究、創造性と知能の関係、性格特性と創造性の適性の研究など、創造性の科学について概観することを通して理解します。

次に各種の創造性開発技法を学びます。具体的には、課題に対しアイデアを出す発想法や連想法、それをまとめる収束技法、未来の予測技法、プランの計画技法と実践、その評価方法などです。

授業の中では創造性テストや発想法や連想法を実際に行い、知的活動のはじめから終わりまでの各段階にある、様々な手法や幅広い考え方を学ぶことができます。

知的活動を行っていく研究や社会生活上において、課題やその解決法の発見は重要な要素です。知識発見基礎論は、そのための有用な能力や考え方を養うことができる授業です。

(寄稿/仲清峻・知識3年)

理工学群 物理学類

学類紹介

物理学類は、量子論や相対論を用いて、自然界の様々な現象の基本法則を導くことを目的としています。そのために、古典物理学や、物理的視点からミクロな世界を記述する量子力学・統計力学などを学んでいます。

物理学類の学生より

「物理」と聞いてひたすら公式を暗記した高校の物理を想像すると、それは大学からの物理学とは全く異なります。私は高校の物理が多少得意だったからという理由でこの筑波大学の物理学類を選択しましたが、入学当初はその差異に非常に圧倒されました。まるで写真でしか見たことのない地に訪れたときのような、物理学という待ち受ける壮大な世界に不安や高揚感を覚えました。私は物理学を学ぶ過程でその新しいすばらしさに気がきました。まず物理学は応用範囲がとても広くほぼすべての科学の基盤になっています。素粒子という小さなことから宇宙という広大なことについてまで説明します。次に、物理学は理論そのものが美しいということです。物理学は神学を起源としますが、本当に神が作った自然の理であるかのように、身の回りの混沌としたことがこんなにも簡潔に記述できるということに非常に驚かされます。私はこの物理学という神が悪戯に作った芸術を専攻して本当に良かったと思います。この学問のすばらしさをより多くの人に感じてもらえると嬉しいものです。

(寄稿/岡聖司・物理3年)



量子力学4の講義の様子

物理学類の授業紹介

量子力学は、私たちが普通には目にしないような小さな世界での現象をよりよく表現するための学問です。多くの講義では、まず出発点となる公理を実験事実などから導いた上で、それを元に、より本質的、あるいは現象を理解するのに都合のよい法則や方程式を導出します。そこから再び様々な実験などで観測できる現象を方程式に値として組み込み、計算することで導きます。この流れを繰り返すことで、より現実に近い物理を最も基本となる公理から演繹的に理解することが出来ます。物理学類の座学は量子力学に限らずこのように行われ、先生による板書を中心とした時間のほかには、学生による演習問題の解説や、先生に質問したり、議論したりする時間で構成されます。量子力学は、理解が難しく感じることも多いですが、一步一步積み重ねることで着実に理解を進めることが出来るので、やりがいも多く感じる事の出来る講義です。

(寄稿/藤井康丸・物理4年)

平成 31 年卒業、修了予定者対象就職ガイダンス等のすめ

主に平成31年3月卒業・修了予定の学生向けに下記の通りガイダンス、講座を開催します。日時、内容等に変更が生じる場合がありますので必ず「キャリアサポート部門/学生部就職課 ホームページ <http://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career/>」にてご確認ください。

●就職支援プログラム(企業・団体)

◆就職ガイダンス					
日時	会場	実施内容	日時	会場	実施内容
29.12.4(月) 16:15～17:30 18:15～19:30	1E棟303	就職活動準備講座⑥グループディスカッション対策(事前予約制)	29.12月～ 1回1.5時間 計10回	1E棟各教室	フォローアップ エントリーシート対策(事前予約制)
29.12.5(火) 15:15～16:30	1H棟101	// ⑦就活のためのマナー講座	30.1月～3月 1回1.5時間 各週2～3回程度	会場未定	フォローアップ①エントリーシート対策(事前予約制)
29.12.6(水) 15:15～16:30	1H棟101	// ⑧一般常識テスト受検会			// ②グループディスカッション対策(//)
29.12.13(水) 15:15～18:00	1H棟101	// ⑨就活のためのメイク・着こなし講座			// ③面接対策 (//)

◆学内企業説明会		
日時	会場	実施内容
30.3.1(木)～3.10(土) 12:30～17:15 5ターム制	大会会館	各企業の人事担当者やOB・OGが来学し、ブースごとに企業概要の説明や質問等に応じてくれます。参加企業についてはHP及び掲示板上でお知らせします。(1日約70社出展)

●就職支援プログラム(教員)

◆教員採用試験説明会 ※今年度は終了していません				
日時	会場	実施内容	講師	
29.10.18(水) 15:15～16:30	1E棟205	東京都立学校教員採用試験説明会	東京都教育委員会	
29.11.8(水) 12:15～13:30	1E棟502	新潟県立学校教員採用試験説明会	新潟県若菜会	
29.11.8(水) 15:15～16:30	1E棟205	埼玉県立学校教員採用試験説明会	埼玉県教育委員会	

◆教員採用試験対策講座				
日時	会場	実施内容	講師	
29.10.11(水) & 10.19(木) 第1部 16:45 第2部 18:15～ 29.11.15(水)	共同利用棟 A 1E棟303	第1部 教員採用試験の基本 第2部 教職教養試験対策 教員採用試験合格体験報告会	東京アカデミー (両日ともに同一内容) 在学生	
30.1.15(月)	1C棟210他	模擬授業	筑波大学 OB	

◆教員採用試験対策講座 自治体別対策(事前申込制) ※今年度は終了していません				
日時	会場	実施内容	講師	
29.11.8(水) 13:45～15:15	1E棟502 または503	栃木県と群馬県の試験の傾向と対策	筑波大学 OB	
29.11.8(水) 15:30～17:30		茨城県の試験の傾向と対策		
29.11.15(水) 13:45～15:15		埼玉県と千葉県の試験の傾向と対策		
29.11.22(水) 13:45～15:15		東京都と神奈川県等の試験の傾向と対策		

◆教員採用試験対策講座 論文対策(事前申込制)				
日時	会場	実施内容	講師	
29.11.22(水) 15:30～17:30	1E棟502	論文対策	筑波大学 OB	
29.12.14(木) 13:45～15:45	1E棟204			

◆教員採用試験対策講座 二次試験対策(事前申込制)				
日時	会場	実施内容	講師	
30.1.24(火) 13:45～16:30	1E棟205	2次試験対策講座 第1回	筑波大学 OB	
30.2.20(水) 13:45～16:30	1E棟205	2次試験対策講座 第2回		
30.3.20(火) 13:45～16:30	1C棟306	2次試験対策講座 第3回		

◆教員採用試験模擬試験(事前申込制)				
日時	会場	実施内容		
30.2.1(木) 13:10～17:50	1E棟303	【全国型】		
30.3.1(木) 13:10～17:50	1E棟303	【全国型】		
30.3.13(火) 13:10～15:50	1E棟203	【茨城県型】【神奈川県・横浜市・川崎市・相模原市型】【埼玉県・さいたま市型】【千葉県・千葉市型】		
30.3.28(水) 13:10～16:00	1E棟401	【東京都型】		
未定	未定	【全国型】		

●就職支援プログラム(公務員)

◆公務員ガイダンス				
日時	会場	実施内容	講師	
29.10.25(水) 13:45～15:00	1E棟205	国立国会図書館業務説明会	国立国会図書館	
29.10.25(水) 15:15～16:30	1E棟205	警察庁業務説明会	警察庁	
29.11.22(水) 15:15～16:30	1E棟205	法務省専門職員説明会	茨城農芸学院	
29.12.6(水) 13:45～17:15	3A棟301	国家公務員業務説明会	人事院	

●キャリア形成支援プログラム

◆キャリアインタビュー 2017 ～自分を活かせるしごとを見つけよう～				
日時	会場	実施内容		
29.11.18(土) 13:00-17:00	大会会館 特別会議室	※今年度は終了していますが、次年度も同時期に行う予定です。 就職活動で有効なOB・OG訪問が大学内でできます。本学卒業生や東京地区の社会人大学生が就職活動での質問等に応じます。【定員120名、先着順で事前登録制となります。】		

キャリア・就職相談窓口のご案内

キャリアサポート部門/就職課では、経験豊富なキャリアカウンセラーが個別に相談に乗っています。就職活動は元より、進路全般に関するアドバイスや情報提供を行っています。学年は問いませんのでお気軽に就職課をご利用下さい。尚、個別相談は事前に予約が必要です。基本の相談時間は下記の通りですが、別にご希望がある場合は予約時にご相談ください。

- [8月下旬～2月末]**
 ①9:40～ ②11:00～ ③13:30～ ④14:45～ ⑤16:00～
[3月上旬～8月下旬]
 ①9:40～ ②10:30～ ③11:20～ ④13:30～ ⑤14:20～ ⑥15:20～ ⑦16:10～
 ※1回の相談時間はおおむね40～60分になります。【時期・時間は諸事情により変動します】
- 相談の申し込み・お問い合わせは・・・
 学生部就職課
 (第一エリア1D棟 スチューデントプラザ内)
 予約電話:029-853-8444
 (受付時間 平日8:30～12:15 13:15～17:15)

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター キャリアサポート部門 / 学生部就職課
<http://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career/>

Editors' 2017

1年間、三系と全代会から集まった学生たちが、学内をはじめ各地を走り回ってたくさんの話題を取材し、皆様に提供してくれました。その1年間の感想を書いてもらいました。

▶「紫峰の風」の編集の仕事はどれも普通な学生生活ではなかなか経験できないようなものばかりで、私の人生の中で貴重な体験となったと思います。授業などが忙しく、あまり仕事にかかわることができず迷惑をおかけしましたが、この一年間やってこられたのはひとえに他のメンバーの皆さんのおかげです。ありがとうございました。
 (芸サ連広報局員 大野茜・応理3年)



▶普段の学生生活では経験できないような仕事を「紫峰の風」の編集に携わることができ、そのことに関して自分で記事を書いて一つの枠を作ったことは思い出深いです。一年間本当にお世話になりました。
 (文サ連広報局員 坂井大悟・情報2年)



▶「紫峰の風」の編集に1年間携わらせていただき、普段の学校生活ではあまり知ることのできない団体活動の裏側や、活動の実態、授業のこと、さらには我々の学校生活を支えて



いる人々の活躍を知ることができ、学校を見る目が変わりました。また、広報部の方々と関わることで、人脈もより豊かなものになったと実感しております。ありがとうございました。
 (文サ連広報局長 長坂美優・創成2年)

▶編集の仕事になかなか慣れることができず、気づけばもう引き継ぎの時期となりました。振り返るとあの時はしっかりやるべきだったと後悔の念を覚えますが、この経験は今後活かしたいと思います。ただ、筑波大学を異なる視点から見ることは大変楽しい経験でした。この1年間本当にありがとうございました。
 (芸サ連広報局長 劉承桓・地球3年)



▶紫峰の風の編集をする広報会議は楽しかった。記事の取材がなかったら経験しなかったイベント、知らないままだった学類の活動、団体の実績、小さな広報誌の存在がたくさんある。同じ筑波大学という環境で生活していても、属する組織によってそれぞれがはっきり見えて面白かった。自分の身の回りのことだけこなしで生きているよりもよっぽどいい思いができた。おかげで良



い一年だった、終わるのがもったいないと感じるほどである。
 (体育会広報局長 仲清峻・知識3年)



▶紫峰の風の編集に一年間携わらせてもらって、様々な部活動、サークルなどの活動を知ることができ、とてもよかったです。また、自分で記事を書いたことなどはとても貴重な体験になりました。授業や部活の関係もあり、周りの人には迷惑をかけてしまいましたが、広報に関わることができ、自分の成長を実感できました。
 (体育会医学部会広報局長 笹井裕平・医学2年)

▶私が入学した当初、筑波大学の財政について、国立大学なのだから多くの国税と少しの学費によって賄われていると考えていました。実際には筑波大学紫峰会基金が様々な所で関わっており、学生支援には必要不可欠です。おそらく、かつての私のように考えている人は学内外ともに少なくないと思います。「紫峰の風」の作成に1年携わり、少しでも多くの方がこの基金の重要性を認識していただけたならば幸いです。
 (全代会学内行事委員会 佐々木寛明・生物2年)



宿泊施設・館内食堂のご案内

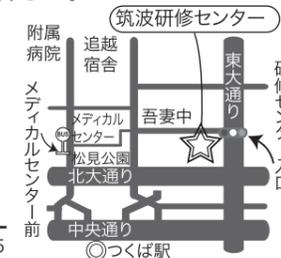
紫峰会基金協力者と旧紫峰会会員の方は1泊200円割引します

筑波研修センター ・1泊3700円より(食事別)
 ・シングル145室・ツイン5室・和室5室
 筑波大学同窓会「茗溪会」の関連法人「(一財)筑波学都資金財団」が運営する宿泊施設です。電話予約は7時から24時まで受け付けています。割引対象の方は予約受付の時にお申し出下さい。

館内食堂 こうせい

・朝食500円均一 ・定食750円より
 バイク形式、懇親会、パーティも承ります。
 内容、料金など気軽にご相談ください。
 (座席80名・立食可)

〒305-0005 茨城県つくば市天久保1-13-5
 Tel 029-851-5152 Fax 029-851-8886
 E-mail center@meikei.or.jp URL <http://www.meikei.or.jp/~center/>



紫峰の風 第6号 2017年12月発行

発行 事業開発推進室
 編集 学生部学生生活課
 学生広報会議(長坂美優・創成2年、坂井大悟・情報2年、劉承桓・地球3年、大野茜・応理3年、仲清峻・知識3年、笹井裕平・医学2年、佐々木寛明・生物2年)
 広報部会(黒川正臣・生命環境2年、山岡光瑛・シス情1年、米山和文・数理物質1年、清野晃平・生物4年、村上優衣・人文4年)
 タイトロゴデザイン 塚本真理(芸専2016年度卒)
 〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1
 電話:029-853-5886
 E-mail: gk.shihokai@un.tsukuba.ac.jp

筑波大学の留学生事情

筑波大学には大変多くの留学生が勉学に励んでいるのはご存知ですか？筑波大学での日常生活において、外国人と接することは特別なことではありません。また、留学生は世界各地からやってきており、筑波大学は国籍の如何を問わず、志ある学生の学び舎です。それ故、筑波大学は多様であるのです。

多様な筑波大学であるには、日本人学生と外国籍の学生という垣根を越える必要があります。残念ながら、全ての学生が越えているというわけではありませんが、実験や講義、課外活動での交流機会は常にあります。

今回、勉学、課外活動などで精力的に活動している留学生の謝承諭(XIE CHENGYU) (G30プログラム留学生*1 生物学類2年)さんにインタビューを行いました。

筑波大学の目標やスローガンである“IMAGINE THE FUTURE.”に即した国際性豊かな筑波大学の一面をご紹介します。

*1 G30プログラム：筑波大学の3つの学群（社会・国際学群、生命環境学群、医学群）で実施しているプログラムで、全て英語の授業によって4年間かけて学位を取得するプログラムのこと。9月に入学し、日本以外の国籍を保有している人向けである。

*2 インタビューは日本語にて行いましたが、記事にするにあたって必要な文を補うなど、文章は謝さんの了解の下、一部改変しております。



Interview

謝承諭 (XIE CHENGYU) さん
G30プログラム留学生 生物学類 2年

Q1. 出身はどこですか。

A1. 中華人民共和国（以下中国とする）の江蘇省です。上海の近くです。

Q2. 何故日本に留学しようと思ったのですか。

A2. 私はもともと中国の大学で勉強していました。2年生の時、台湾に半年間留学し、その時に日本についてよく知ることとなりました。台湾では日本に対するイメージが比較的良く、台湾で平仮名と片仮名を学びました。そこで日本に対して興味を持ちました。中国へ帰国後、当時あまり好きでなかった電気工学を専門としていたこと、留学先の文化との違いに違和感を感じたこと、そして、たまたまネットでG30プログラムについて知ったこともあり、日本に留学しようと考えました。私が本当に好きなのは生物学なんです。生物学の賞を省と全国レベルで取ったこともあります。

Q3. 日中間の留学プログラムはいくつもあると思うのですが、何故G30プログラムを選んだのですか。

A3. G30プログラムでは英語、日本語に加え、専門科目を学ぶことができるからです。小学校から高校まで中国で勉強してきましたが、G30プログラムのために半年間英語を勉強しました。

Q4. G30プログラムを採択していた大学は複数あるかと思いますが、何故筑波大学を選んだのですか。

A4. G30プログラムで生物学を学べるのは名古屋大学か筑波大学だけでした。私は自然が好きなので、より自然に近い筑波大学を選びました。また、中国の故郷近くの湖で藻類

が大発生して1週間近く水道水が飲めない時があり、その時に藻類に興味を持ちました。そういったこともあって、藻類の研究で有名な筑波大学を選びました。

Q5. なるほど、そうして生物学類に入学したわけですね。今、サークル活動にも積極的に参加しているようですが、何故サークルに入ったのですか。また、サークル活動はいかがですか。

A5. サークル「のうりんむら」については、自然が好きで、野菜が好き、自分で野菜を育てる達成感があり、そしてその美味しさに感動できることから入ることにしました。農業に興味があり、今年の夏休みには主に生物資源学類向けのインドネシアでのサマースクールにも参加しました。それくらい自然が好きです。

クラブ「ワンダーフォーゲルクラブ」は、生物学類の実習中、同じく生物学類に所属するクラブの主将の紹介で入りました。もともと登山は好きでしたが、より本格的な登山を楽しみたいと思い、今年の4月に入部しました。最初の頃は日本語が殆ど喋れず大変でしたが、日本を知りたい、日本の自然・文化に触れたいと思いつきました。皆さん、優しいですし、一緒にトレーニングもできて楽しいです。

G30プログラムでは、留学生と英語で話すことしかしませんし、専門のことを勉強するのみです。自分は大学を一回経験していますから、勉強だけではなく、サークル活動など自分がやりたいことをやり、日本の文化や自然に触れたいです。これが留学だと考えています。

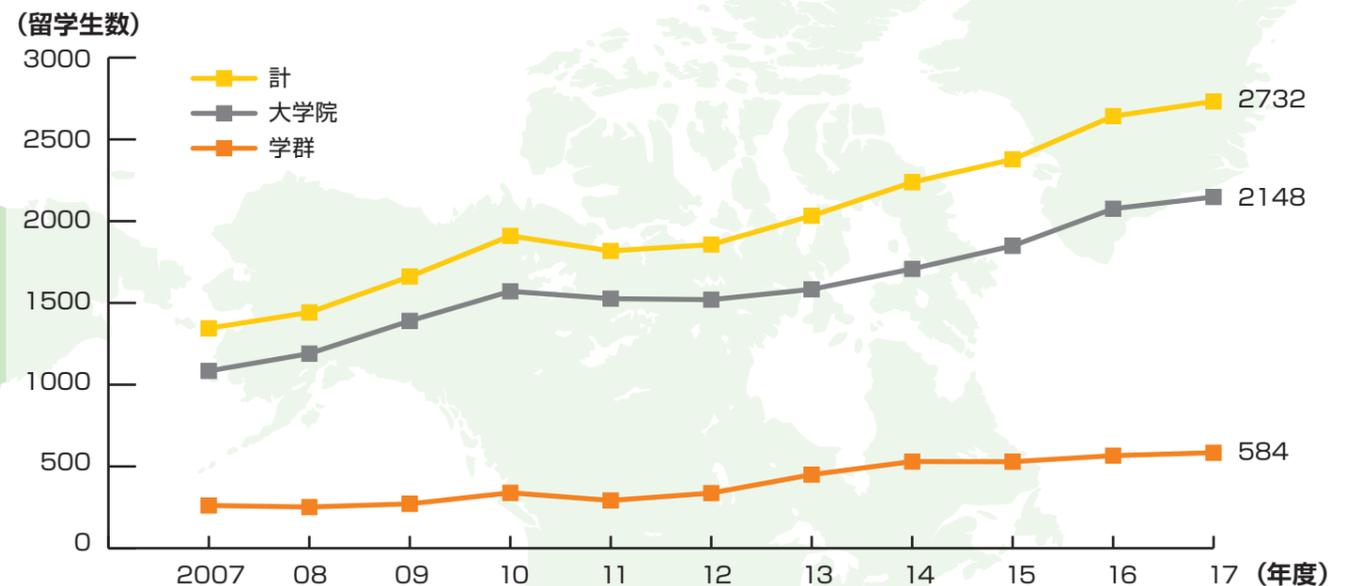
Q6. 素晴らしい志に感銘いたします。今の大学生活は充実しているようですが、今後、筑波大学や日本で何をしたいですか。

A6. 筑波大学で何をするか特に決めていませんが、交換留学で英語を学び、その後、日本の大学院に進みたいと思います。

(文責/全代会学内行事委員 佐々木寛明・生物2年)



年度別留学生数の推移



地域別 留学生数ランキング

地域	人数
1 アジア(20か国・地域)	2,147
2 ヨーロッパ(27か国)	136
3 CIS(旧ソ連)(11か国)	126
4 アフリカ(29か国)	118
5 中南米(16か国)	98
6 北米(2か国)	48
7 中東(11か国)	45
8 オセアニア(6か国)	14
合計(122か国・地域)	2,732

国籍別 留学生数ランキング

国籍	人数
1 中国	1,354
2 韓国	175
3 インドネシア	120
4 台湾	101
5 ベトナム	83
6 マレーシア	47
7 ブラジル	46
8 アメリカ合衆国	45
9 バングラディッシュ	43
10 タイ	41
10 インド	41
12 ドイツ	32
13 フィリピン	31
14 ロシア	29
15 フランス	26
15 ウズベキスタン	26

留学生の統計情報

地域別では、アジア地域からの留学生が多く、学問分野では、生命環境や人文科学など、様々な分野にいます。人数も年々増加しています。

学群・学類別 留学生数ランキング

学群・学類	人数
1 生物資源学類	120
2 国際総合学類	85
3 生物学類	68
4 日本語・日本文化学類	50
5 社会学類	47
6 人文学類	37
7 比較文化学類	28
8 応用理工学類	22
9 地球学類	19
10 工学システム学類	17

研究科別 留学生数ランキング

研究科等	人数
1 生命環境科学研究科	488
2 人文社会科学研究科	445
2 システム情報工学研究科	445
4 人間総合科学研究科	433
5 数理物質科学研究科	166
6 グローバル教育院	82
7 図書館情報メディア研究科	63
8 教育研究科	24
9 ビジネス科学研究科	2

文化系サークル連合会活動紹介 ～文サ連をもっと知りたい～



やどかり祭での一枚

斬桐舞

斬桐舞は、「ユニバーサルソーラン」をコンセプトに年齢、性別、国籍、障害、経験の有無に関わらずみんなでよさこいソーランを楽しむことをモットーに活動しています。3月から11月にかけては北海道、千葉、東京、静岡など日本各地のよさこい祭りに参加し、オリジナル曲「^{かつさい}鳴彩」を披露しています。先日池袋で行われた「ふくろまつり」というお祭りでは「ルミネ賞」をいただくことができました。また、県内外のイベントにもお呼びいただき、お客様に元気と笑顔を届けられるような楽しい演舞でイベントを盛り上げています。これからもよさこいソーランを心から楽しむ気持ちを忘れず、お客様に感動していただける演舞を目指して頑張っております。

(寄稿/斬桐舞代表 村田紗也佳・障害3年)



活動の様子

野外活動クラブ

野外活動クラブでは協調性や自主性、自然への理解を養うことを目的とし、日ごろから楽しくキャンプや旅行などの活動を行っています。夏季休業中にはJRが発売する、青春18きっぷを用いて2週間程度の電車の旅を計画し全国各地を回ります。長期間の共同生活を通して、個性豊かな部員たちがお互いを理解し、それぞれの長所や短所を尊重しあう素敵なサークルです。また筑波大学開学以来の歴史を有し、本年度で44年目を迎える伝統深いサークルとなっております。各代の先輩たちが築き上げた、部員同士の仲の良さや自由さ、いわゆる野外活動クラブらしさを大切に活動を行っています。

(寄稿/野外活動クラブ部長 島浦洋介・物理3年)

ストーリーテリング研究会

現在私たちは4年生4人、3年生4人、2年生3人、1年生2人の13名で春日エリアを拠点として活動しています。活動内容としては、主に図書館や保育所に向いて絵本の読み聞かせ等を行っています。つくば市立図書館では毎月第5土曜日または第4日曜日に、保育所では第2または第3水曜日に年7～8回ほどおはなし会を開催し、子どもだけでなく保護者の方にも楽しんでいただいています。おはなし会をするにあたって、テスト期間や長期休業を除いた毎週金曜日に大学のサークル室で定例ミーティングを行い、そこでおはなし会の参加者を募集、決定し、読み聞かせの練習をしたりしています。また、毎年学園祭でもおはなし会を開催しています。そのほか、依頼を受けて書店での読み聞かせや、ホームカミングデー開催時に参加者のお子様を対象にした読み聞かせをするなど、多くの方の協力のもと様々な場で活動させていただいています。活動を通して絵本の面白さをたくさんの人に伝えられるだけでなく、多くのことを学ばせてもらえるのでやりがいを感じています。会員数はあまり多いとは言えない状況ですが、子どもたちと触れ合う機会が多い活動内容の関係もあってか、穏やかで気遣いのできる人が多いので、お互いに助け合いながら和気あいあいと楽しく活動しています。今後もたくさんの人に楽しんでもらえるように、多くの方の協力や指導の下、積極的に活動していきたいと考えています。

(寄稿/ストーリーテリング研究会代表 川上真由・知識3年)



撮影会を楽しむ部員一同

写真部さくら組

筑波大学には写真部が2つあり、当団体は春日エリアを主な拠点としています。私たちの主な活動は『新入生歓迎撮影会』や『撮影合宿』等の「撮影会」と自身の作品を展示する「展示会」があります。撮影会を通じて部員たちの仲を深め、展示会を通じて各々の写真の技術を深めています。撮影会や展示会がないときは毎週木曜日にミーティングをし、次のイベントについての話し合いなどを行なっています。また、ミーティングの際に部員同士で撮影会を企画したり、イベントへの参加を検討したりするなど部員間の交流も盛んです。今後もよき写真を撮れるよう日々の活動に取り組んでいきたいと思っております。

(寄稿/写真部さくら組組長 井上能考・医療3年)

芸術系サークル連合会活動紹介 ～芸サ連をもっと知りたい～



ライブ時の様子

E.L.L. (筑波軽音楽協会)

E.L.L. (筑波軽音楽協会) は、筑波大学の5つある軽音楽サークルの内の一つです。E.L.L. の名称はギタリスト、ジミー・ヘンドリックスの1stアルバムの「Electric Lady Land」からとっています。サークル員には楽器初心者から無類の音楽好きまで集まり、ビートルズやキンクスなどの古き良き時代の音楽から近年の邦ロックやモダンな洋楽など幅広い音楽をバンド形式のライブで行っています。また、キャンプや合宿、クリスマスライブなどの季節ごとのイベントも多く充実したサークルライフを送ることのできる魅力的なサークルです。

(寄稿/E.L.L. 会長 神野充哉・情報3年)



6月に行ったライブ「つゆフェス」の様子

つくばフォーク村

つくばフォーク村は芸術系サークル連合会に所属する大学公認のサークルです。活動の主たるものは観客を集めて行うライブとそれに向けた練習です。ライブについてはアコースティックギターを用いての弾き語りはもちろんのこと、エレキギターやベース、ドラムを用いたバンド演奏も行っています。また、長期休暇にはバンド合宿を企画し、レクリエーションも交えサークル員の親睦を深めつつ、スキルアップに励んでいます。また、日々の活動として、毎週火曜日と金曜日のミーティングを行っています。ミーティングでは、最初の1時間を使って、サークル員がアコースティックギターを持ち寄り、弾き語りで大合唱する「村唄」というものを行い、楽しい村民生活を過ごしています。

(寄稿/つくばフォーク村広報長 内山敬太・エシス3年)



今年の3月に行われた千葉県・葛飾八幡宮における仕舞『狸々』

筑波能・狂言研究会

筑波能・狂言研究会は、東京教育大学時代(当時は大塚能・狂言研究会)からの伝統を受け継ぐ、伝統あるサークルです。現在、4年生4名、3年生3名(うち1名は留学中)、2年生2名、1年生4名で活動しています。弊会は、能グループと狂言グループで分かれており、月2回程度の能・狂言の各先生からご指導を頂いています。それ以外では、毎週火曜日、木曜日、金曜日の18時から21時で自主稽古をしています。主な活動としては、雙峰祭での学園祭公演と年度末の卒業公演、そして外部公演も行っています。

この3年で、弊会は、会員の増加・外部依頼の増加に伴い、新しいサークルへと進化しつつあります。今後もご支援・ご声援のほど、宜しくお願いいたします。

(寄稿/筑波能・狂言研究会会長 七海健太・人文4年)



活動の様子(2017年度新人公演『星降る夜に』)

人形劇団 NEU

人形劇団 NEU は筑波大学にひとつしかない人形劇をするサークルです。NEU (ノイ) とはドイツ語で「新しい」を意味する言葉で、子ども向けのものから大人向けのものまで、いろいろと新しいことに挑戦しながら楽しく活動しています。また、学内の公演だけでなく地域の商業施設や幼稚園などからもご依頼を頂き、公演を行っています。小規模な団体ではありますが、個人個人の特性を活かして人形製作や稽古、時には影絵なども交えながら、新しいものを取り入れつつ演目作りを行っています。

今年9月に新人公演を学内にて上演し、沢山のお客様にご来場頂きました。公演情報や日々の活動について、詳しくは劇団 Web ページをご覧ください。

(寄稿/人形劇団 NEU 座長 太田帆南・知識2年)

全学学類・専門学群代表者会議活動紹介 ～全代会をもっと知りたい～

学内行事委員会

【委員会紹介】

・活動目的

学内行事委員会では、学内行事の企画・立案・運営、またそれら業務を委託している全代会下部組織の監査・監督と、学内各組織の共同業務が滞りなく行われるための環境整備を行うことを目的としています。

・活動頻度

毎週木曜日の18時30分からミーティングを行っています。

・委員会構成

今年度の委員会内の役職としては委員長のほかに、学園祭実行委員会担当、財務担当、広報担当、三系担当、スポーツ・デー担当が存在します。

・各役職の具体的な業務内容

【学園祭実行委員会担当】 全代会下部組織である学園祭実行委員会との連絡を主にしています。

【財務担当】 学生財務会議に出席し、学内で活動する諸団体からの、筑波大学紫峰会基金への援助申請に関して補助を行います。

【広報担当】 学生広報会議に出席し、広報誌『紫峰の風』の原稿を執筆、もしくは執筆依頼をします。

【三系担当】 文化系サークル連合会、芸術系サークル連合会、体育会が行う課外活動団体会議に参加します。三系とは、上記三つの学生組織の俗称です。

【スポーツ・デー担当】 スポーツ・デー学生委員会との連絡を行い、スポーツ・デー運営委員会に参加します。

【活動紹介】

・昨年度までの活動

【学生組織連絡会の開催】 学内における諸学生組織の情報共有の場として、昨年7月に学生組織連絡会を開催しました。この連絡会では、各組織の行事運営に関する問題点を共有し、自

組織のよりよい活動に役立ててもらうことを目的としています。参加した組織は、学園祭実行委員会、スポーツ・デー学生委員会、宿舎祭実行委員会、新入生歓迎特別委員会でした。

【各種文書の校正】 学園祭実行委員会から提出される学園祭実行計画書や予算書など、各種文書の校正を行いました。事前に委員会内での資料共有を行うことで、各委員が内容を把握し、質問・疑問点を洗い出した上でミーティングに参加できるようにし、より円滑な全代会での議案審議につながりました。

【各種会議への参加・活動報告及び議事内容に関する審議】 各役職が担当する会議へ参加し、それぞれの会議後の報告に関して、口頭報告に加え、資料・議事録などの共有を行いました。そのうえで、委員会内・全代会全体で審議の場を設けました。

・今年度の目標

例年行っている上記活動に加え、より綿密な学生組織間の連携を目指しています。

また、委員会内部でも新たな案を発案・審議する場を積極的に増やし、よりよい行事運営に貢献できるようにしたいと考えています。(寄稿/全代会学内行事委員長 三浦日向子・比文2年)



会議の様子

総務委員会

【委員会の紹介】

総務委員会は、会議運営の補佐を行い、また、情報環境を整備するという側面から全代会の円滑な運営を支えることを目的として活動しています。活動は週1回で、委員はそれぞれ事務部門と情報部門という2つの部門に分かれています。

事務部門とはその名の通り、物品購入申請やそれに伴う会計業務から、教室利用申請、会議に用いる資料の印刷や人事管理、全代会室の整理・整頓まで、全代会全体に係る事務業務を行っています。

情報部門では、全代会室のネットワーク環境の整備やパソコン機器、コミュニケーションツール slack の管理、課外活動団体が利用する STB サーバの管理や Web ページ学生委員会への委員派遣、また、リニューアル予定の全代会ホームページの開発など、情報系の学類に在籍する学生を中心に活動を行っています。今年度は1A棟耐震工事に伴う全代会室の引っ越しの際のネットワークのサポートも行いました。

【活動紹介】

事務部門の昨年度までの活動では、業務内容の特性上一人あたりの仕事量が少なく、委員がやりがいを感じにくいことが問題点として挙げられていました。そのため、今年度は委員一人に対して一つの役割を設け、ひとりひとりが継続的にこなすべき業務を持つように分担しました。さらに自分の仕事の進捗状況をお互いに

報告・確認するように努め、その結果、委員が責任感を持ってそれぞれの業務に取り組むことができるようになったと思います。また、一昨年よりコミュニケーションツール slack を導入したことにより個人個人の機器で会議資料を閲覧できるようになりました。それを活かし、今年度は事前にメールで行う出欠確認の際に資料印刷が必要か否かを尋ねるようにし、資料印刷の枚数を必要最低限に抑えるよう努力しています。今後も引き続き業務を行っていく中で改善点を見つけ、全代会の運営が円滑にできるよう尽力していきます。

昨年度情報部門は人員の不足や引継ぎ不足により、部門自体の存続・立て直しに専念するほかなく、1年生を迎え入れることが困難でした。そこで、今年度は上級生を増やし、さらに委員配属の段階で1年生を数人迎え入れることができたので、滞っていた業務の再開と引継ぎ準備、1年生の育成に努めています。また、新しいホームページ開発を行うことで事務部門の業務を簡便化することを目指しています。さらに、slack 内で情報部門に問い合わせのできる場を設け、依頼が早急に届くようにしたため、昨年度よりも連絡が密に取れるようになりました。今後も依頼伝達のサイクルを向上させるため、slack を積極的に利用する方針で活動していく予定です。

(寄稿/全代会総務委員長 太田涼子・日日2年/

総務委員会情報部門長 村田奈々穂・創成3年)

全代会 春学期活動報告

全代会副議長

工学システム学類2年 村手悠人

今年度の春学期、全代会の本会議や意見聴取会では、まず新年度の議長団を選出したのち、複数回の会議にわたって双峰祭に向けて実行計画書案や予算案、また出場する企画についての審議を行いました。その結果、すべての議案が修正こそあったものの可決され、今年度の双峰祭は問題なく行われることとなりました。それとともに、新たに始まる大括り入試に伴う制度改革に合わせ、改革に伴いクラス制度が変化していく中、全学生を代表し、学生の意見を集約し学校側に届ける組織として全代会が何をしていけるかというのを考えるべく、このテーマについて時間を割き、全代会構成員で話し合いを行いました。話し合いでは構成員から多くの意見が出ており、この話題に寄せられる関心の高さがうかがえました。



全代会副議長として活動する村手さん

全代会企画のイベントとしては、「学長と全学学類・専門学群代表者会議(全代会) 構成員との懇談会(茶話会)」を開催しました。これは学校の問題点を、全代会構成員と学長・副学長の先生方や職員の皆様と話し合うもので、第一部では学生と学校側が話し合いを行い、第二部では食事を楽しみつつ自由に話し合うというものです。懇談会では学校に関する問題点を学生と学校側で共有し、解決に向けて協議を行いました。また、自由議論の時間では、学生と先生方や職員の皆様が、現状の課題点だけではなく将来の展望について話し合うなど、有意義な時間を過ごすことができました。



茶話会で発言する永田学長



茶話会の様子

また、対外的なイベントとしては、夏休みに「つくば市長との懇談会」を開催いたしました。市長との懇談会では第一部に市の施設、今年度は市議会場を見学し、第二部に、市長をはじめとした市の幹部陣や筑波大学の OBOG の職員の方々と、我々全代会構成員や筑波大学学園祭実行委員の方々、それに有志の筑波大学生を交えた懇談会を開催いたしました。普段見ることのない市政の現場を見ること、また日々つくば市のために働いている市長をはじめとする職員の方々から直接お話を伺えたのは貴重な経験でした。

さらに今年度から、学長と直接対談できる機会を設けようということで、「学長・副学長と筑波大学生との懇談会」を開催いたしました。この懇談会は筑波大学の学生と永田学長が直接学校の諸問題について議論するものです。懇談会では、まず学長から今後の筑波大学の展望についてのお話があり、その後学生と学長との意見交換が行われました。学生側からは学校の環境やその在り方に関する諸問題について率直な意見が多く出され、また永田学長も出された質問に対して丁寧に回答を行われていました。また、学校の設備についての問題だけでなく、教育についてその方針や考え方、サークル活動についての話題も取り上げられており、多種多様な話し合いが行われていたように感じられました。



学長・副学長と筑波大学生との懇談会の様子

副議長としては、毎週学生生活課の方々やランチミーティングを行い、先ほども触れました入試制度改革や学長との懇談会、また保健管理センター有料化の話など、学生についての問題について学校側と話し合いを行いました。また、毎回の会議運営を行うとともに、全代会の幹部陣として、今後の全代会がどうあるべきかを常任委員会の委員長や議長団で話し合いました。

体育会活動紹介 ～体育会をもっと知りたい～



2016年9月の北関東学生馬術大会にて

馬術部

筑波大学には厩舎があり、馬術部がそこで11頭の馬と1頭のポニーを飼育し、活動していることはご存じでしょうか？昨年馬術部は関東リーグの二部に昇格しました。今年は二部継続を目標に練習を重ね、様々な学生戦に出場するつもりです。しかし、自分が馬術部ですと自己紹介すると、ほとんどの相手には筑波大に馬がいたのかと驚かれるので、大学内で馬術部の認知度はきわめて低いと考えられます。この現状を変えるために、これからは競技だけでなく広報活動や厩舎見学を積極的に行い、たくさんの人に馬の魅力を伝えられるような試乗会も行っていければと思っています。気が向いたらぜひ一度馬場に来て、私たちが乗っている姿を見ていただきたいです。

(寄稿/馬術部主将 勝田翔・生物3年)



第66回関東学生剣道優勝大会

剣道部

私たち体育会剣道部は、日本一を目標に部員一体となって日々稽古に励んでおります。現在、部員は男子39名、女子20名、計59名で、稽古は月曜日から土曜日に毎日約2時間行なっています。それに加えて、朝稽古や各自自主練習、正月には寒稽古を実施し、適宜強化合宿なども行なっております。

先の関東インカレにおきましては、団体戦は男女ともに優勝、男子個人戦は2位筒井雄大(体専4年)3位星子啓太(体専1年)、女子個人戦は2位大西ななみ(体専4年)3位竹中美帆(体専2年)という結果を残しました。インカレの個人戦におきましては、男子は星子啓太が3位、女子は大西ななみが1位という結果を残しました。残すインカレの団体戦も優勝することができ、この試合をもって引退となる4年生は有終の美を飾ることができました。ご声援ありがとうございました。

(寄稿/剣道部主務 池田翔吾・体専2年)



2017年夏の陣

サッカー同好会

サッカー同好会は、個々の技術・人間性の向上のため、日々練習に取り組んでいます。「常に笑顔で、サッカーを楽しむ心を忘れない」をモットーに、相手との駆け引き、いいプレーや勝負へのこだわりといった、サッカーの醍醐味を楽しんでいます。練習は週に3回行っており、月曜日は第2グラウンド、土曜日は春日グラウンド、水曜日は外部のグラウンドを使用しています。基本的には、学類3年生を中心に活動しています。学類3年生の夏までを現役期間として活動する形をとっていますが、現役期間を終えても練習に参加する上級生も多くいます。サッカー同好会の良い点は、このように現役期間を終えた上級生も練習に参加し、1年生から大学院生まで、広い世代のメンバーでサッカーを楽しめるところにあります。休暇期間中に行われる大会には、学類3年生までの現役メンバーを中心にチームを編成して、参加しています。

(寄稿/サッカー同好会 川村颯・国際3年)



2017年度無事故監視活動最終日19年連続無事故達成

ライフセービング部

皆さん、ライフセービングをご存知でしょうか？私達の主な活動は茨城県銚田市の大竹海岸を拠点とした水辺での事故を防止するための実践活動で、その活動は多岐にわたります。海水浴場営業期間のパトロール、水辺での安全な楽しみ方を教える教育、ライフセービング競技に向けた練習・参加といったスポーツなどがあります。ライフセービングと聞くと、泳げる人がやるものと思いがちですが、そんな事はありません！全く泳げない人も、この活動を始めて部の中心となり色々な分野で活躍しています。現在、部員は昔に比べ少なくなっていますが、卒業された方々とも一緒になり今年で19年連続無事故を達成し、来年の20年連続無事故達成に向けて頑張っております。興味のある方は一緒にライフセービングをやりませんか？お待ちしております！

(寄稿/ライフセービング部 深澤良磨・社工4年)



試合の様子

医学ラグビー部

医学ラグビー部は現在、関東医歯薬ラグビーリーグの一部リーグに所属しており、昨年度は一部リーグ2連覇を達成いたしました。

医学ラグビー部は、月曜、木曜、土曜の週3回、筑波大学のラグビー場で練習をしています。週に2回のウエイトトレーニングも行いますが、最近では自主的に週に3回や4回のトレーニングを行う部員が増えてきました。また、練習ビデオや試合のビデオをマネージャーが撮影するのですが、ここ数年でビデオの撮り方が上達し、プレイヤーはいつでも自分のプレーを反省することができるようになりました。このようにマネージャーの努力もチームの大きな力となっています。これからも部員一同3連覇に向けて精進していきます。

(寄稿/医学ラグビー部代表 木下陽介・医学3年)



試合の様子

医学ソフトテニス部

私たち医学ソフトテニス部では、春夏2回行われるリーグ戦や東日本医科学生総合体育大会での勝利を目指し、日々練習に励んでいます。練習は週3回のペースで行っており、部員同士で教えあい切磋琢磨しながら上達を目指しています。残念ながらなかなか結果の出ない時期も続きましたが、特に女子部では大学からソフトテニスを始めた部員にも結果が出始めるなど練習の成果を実感しています。また、男子部でも今年の関東医歯薬リーグ個人戦でベスト8に残るなど勢いが出てきています。この流れを維持するためにも部員一同再び気を引き締めて練習に励んでいきます。そして、目標であるリーグの昇格を果たしたいと思っています。

(寄稿/医学ソフトテニス部主将 宮越俊宏・医学3年)



演技後の写真 海外の参加チームと

体操部

今夏、体操部はノルウェーで行われたWorld Gym for Life Challengeに参加しました。競技として難度・美しさの点数を競うのではなく、音楽に合わせた演技で独創性や技術などの項目を評価されるコンテスト形式の大会です。

結果としては、金・銀・銅の三つにランク分けされる中で銀賞を獲得しました。金賞は逃しましたが、金賞を獲得したチームのみが出場できるエキシビジョンに審査員の推薦で出場することができました。

本大会には日本体操協会一般体操委員会の推薦により参加しましたが、北欧での開催ということで個人の経済的負担が非常に大きい遠征でした。そうした中で部員の負担軽減のため紫峰会基金の特別援助金を頂けたこと、謹んで感謝申し上げます。自分たちの活動が認められ、応援していただいているということを実感すると同時に、経済的な理由のために遠征への参加を諦めた部員もいたため、このような支援の重要性を痛感した大会でした。

(寄稿/体操部会計 中田悠飛・比文4年)

紫峰会基金より

平成28年度 紫峰会基金援助金支給報告

7月14日に開催された紫峰会基金運営委員会にて、平成28年度の紫峰会基金援助金の支給について報告されました。内訳は次のとおりです。

援助金項目	金額(円)
課外教育行事援助金	2,617,343
課外活動団体援助金	20,500,000
特別援助金	176,000
組織助成金	21,990
育成指導補助給付	21,432
記念品特別支給	27,226
合計	23,363,991